

# 第63回農林水産祭

農林水産祭は、国民の皆さんに農林水産業と食に対する認識を深めていただくために、農林水産省と公益財団法人日本農林漁業振興会が共催して、昭和37年から実施しており、今年で63回目となります。

農林水産祭では、過去1年間の農林水産祭参加表彰行事において農林水産大臣賞を受賞された方々の中から、7つの部門ごとに天皇杯、内閣総理大臣賞及び日本農林漁業振興会会長賞を選賞し、表彰を行っています。今回、林産部門では47の出品財を対象に審査が行われ、天皇杯に株式会社T・F・FORESTRY（神奈川県小田原市）、内閣総理大臣賞に惣田政宏氏（北海道広尾郡広尾町）、日本農林漁業振興会会長賞に山田芳朗氏（静岡県静岡市）が選賞されましたので、紹介します。

## 天皇杯

株式会社T・F・FORESTRY  
（神奈川県小田原市）  
「森林サービス産業の推進による都市近郊での新たな林業経営」

同社は、樹齢60年を超えるスギ、ヒノキ人工林等の森林資源と、都市近郊にあって観光地に隣接した立地を活かし、森林をレクリエーションのための活動空間として活用したサービスを展開しています。



主となる施設「フォレストアドベンチャー」では、木々の間に張られたワイヤーを使い、ジップスライド（空中滑空）や樹間歩行をしながら約1haの森林内を巡ることが出来ます。また、森林内の作業道を活用した2・5kmのコースでマウンテンバイクを楽しめる「フォレストバイク」事業も展開しており、現在、年間約2万人が訪れる人気スポットになっています。

木材販売による収入が少ない中でも、森林空間を活用することによって収入を確保し、林業経営の持続性を高める先進事例として注目されています。

## 内閣総理大臣賞

惣田政宏氏（北海道広尾郡広尾町）  
「高い技術力と漁業関係者との協働によるトドマツ、カラマツの優良な苗木生産」

惣田氏は、平成8年に有限会社惣田種苗園に入社し、森林管理局、北海道、民間から技術者を招聘して苗木生産の技術を研鑽しました。令和3年に同社代表取締役役に就き、「北海道内で一番優良な苗木の安定供給」を自身の理念に掲げ、現在は70haの大幅積ほ場で主にトドマツ、カラマツの苗木を年間約160万本生産しています。

同社創業の地であるえりも町では、かつて森林が失われ海に流出した土砂によって漁場が荒れたため、先人たちが森林づくりに取り組んだ結果、漁場が復活しました。この経緯を惣田氏は強く心に受け止め、漁業関係者を積極的に雇用することで、苗木生産を通じて森林の重要性の理解の共有につなげています。



やまだしょうろう  
山田芳朗氏(静岡県静岡市)

認証森林での高密度路網と車両系  
林業機械の活用による高収益な林  
業経営

山田氏は、所有する157haの森林において、115m/haの高密度な路網と高性能林業機械を活用し間伐等の森林整備を行っており、柱材を主とした良質な木材生産により、林業収支がプラスとなる経営を続けています。指導林家として、若手の林家や林業従事者の技術力の向上に取り組むほか、地元の小学生を対象とした森林教室の講師を引き受けるなど幅広い活動に取り組んでいます。

また、山田氏が所属する林業研究グループでは森林認証部会を立ち上げ、平成17年に山田氏の所有林を含むグループの所有林で森林認証を取得し、地元のイベントにおいて認証制度の普及に取り組んでいます。



## 実りのフェスティバル

「実りのフェスティバル」は、農林水産業と食に対する理解の増進と消費拡大等に資するため、農林水産祭の一環として、都道府県の農林水産物の展示や販売を中心として行う行事で、昭和38年からは皇室の御来臨を仰ぎつつ行っています。令和6年度は11月1日(金)、2日(土)の2日間、サンシャインシティ(東京都豊島区)で開催されました。

「実りのフェスティバル」には都道府県・農林水産関係団体の展示等のほか、農林水産省が出展する政府特別展示コーナーもあり、林野庁からも出展しました。

1日には、林野庁のブースに秋篠宮皇嗣同妃両殿下の御視察を賜り、企業の森づくりやJ-クレジット制度等に関する展示を御覧になり、説明を受けられました。

このほか林野庁のブースでは、国産材を利用した紙製飲料容器「カートカン®」の配布や国産材を使って製作した木製品の展示等を通じて、身近なものを木に変える「ウッド・チェンジ」の普及啓発を行いました。

来場者からは「人々はもっと森林の大切さを感じるべき」といった意見や、「色んなものが木材で作られていることに驚いた」などといった感想をいただき、イベントは盛況のうちに終了しました。

